

Fossologyの現場展開(利用)における課題点の共有

2020/6/23 富士通株式会社 白石 明大



目次

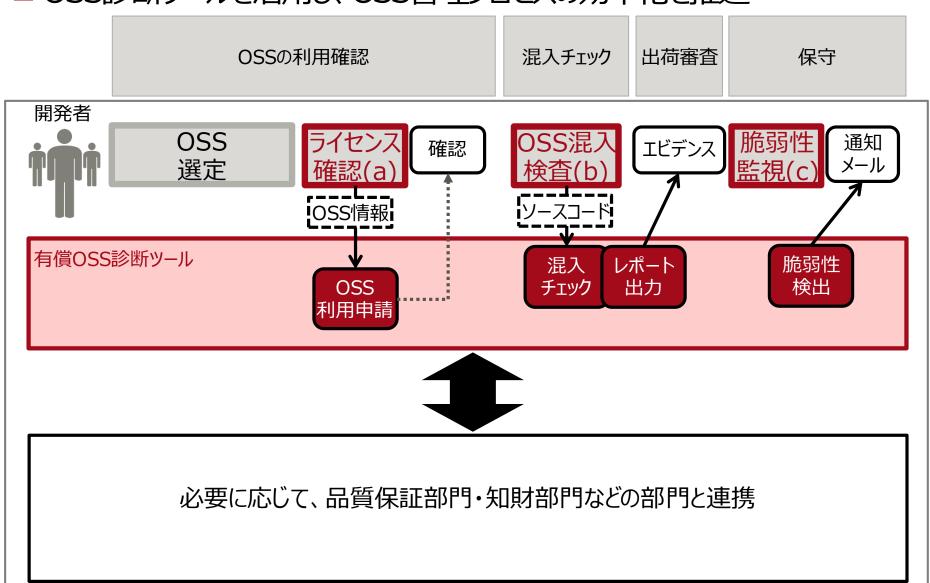


- ■OSSコンプライアンス管理の流れ
- ■FOSSologyの利用にあたっての課題
 - Scan結果に対する精査負荷の高さ
 - SW360でのレポート出力
- ■さいごに

弊社でのOSS管理プロセス



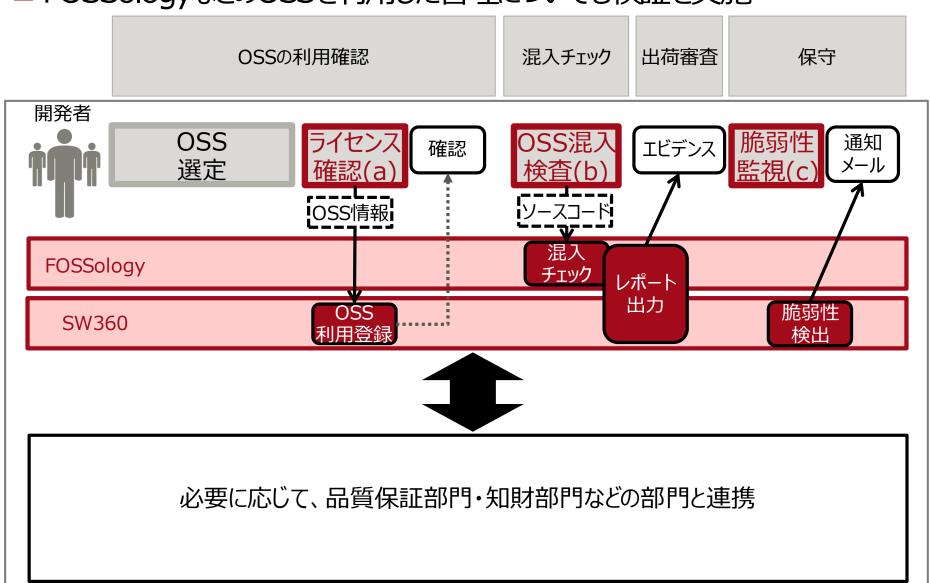
■ OSS診断ツールを活用し、OSS管理プロセスの効率化を推進



弊社でのOSS管理プロセス



■ FOSSologyなどのOSSを利用した管理についても検証を実施



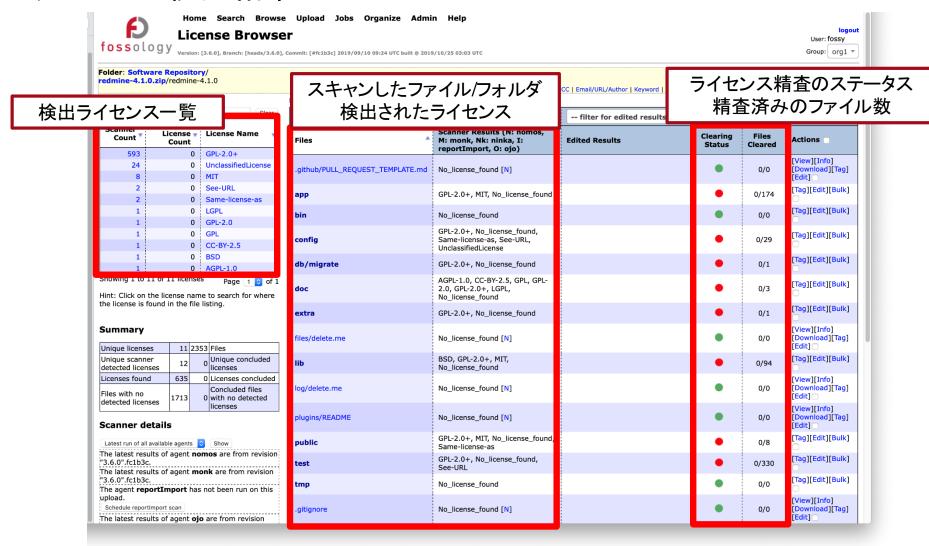
検証環境



- SW360
 - CentOS 7.8.2009
 - OpenJDK 1.8.0_252
 - Apache CouchDB 1.7.2
 - Apache maven 3.6.1
 - Apache Thrift 0.11.0
 - Liferay portal 7.2.0-ga1
 - SW3605.1.0
- FOSSology
 - Docker 19.03.11
 - FOSSology 3.6.0

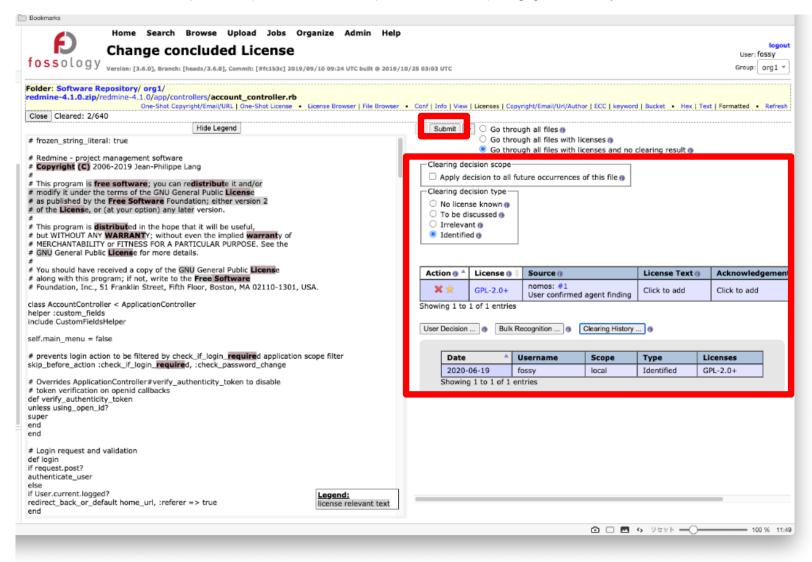


■ライセンス検出結果





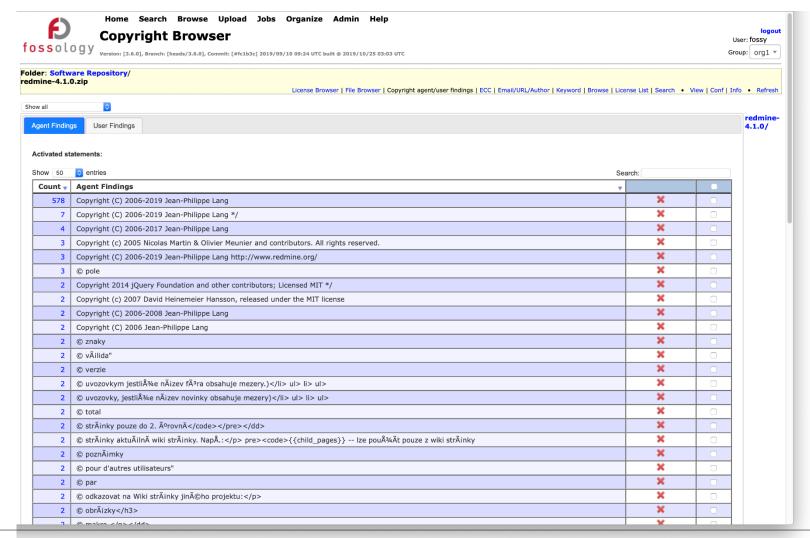
■ライセンスを確認し、適切であれば確定操作を実施





■その他の検出

■著作権表示





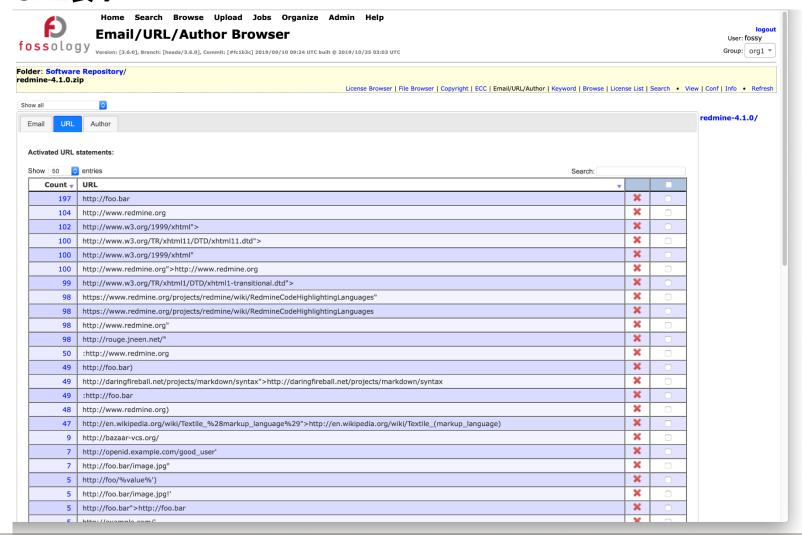
- ■その他の検出
 - ■メールアドレス表示





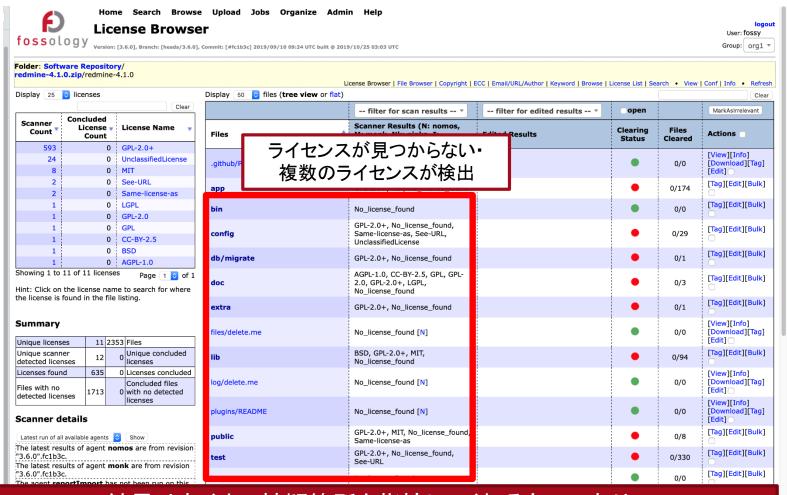
■その他の検出

■URL表示





■ライセンス検出結果



結果はあくまで被疑箇所を指摘してくれるものであり、 人目での精査/そのノウハウが必要になる。

課題1:精査負荷が大きい



■ OSSコンプライアンス管理を行うにあたって以下の情報が必要となるが、人目による精査が欠かせず、その負荷が大きい

ソフトウェア名 バージョン情報

ライセンス情報

著作権者情報

脆弱性情報 (CPE ID)

ソフトウェア特定後 に、NVDサイトから 調査





FOSSology機能 にて抽出可能

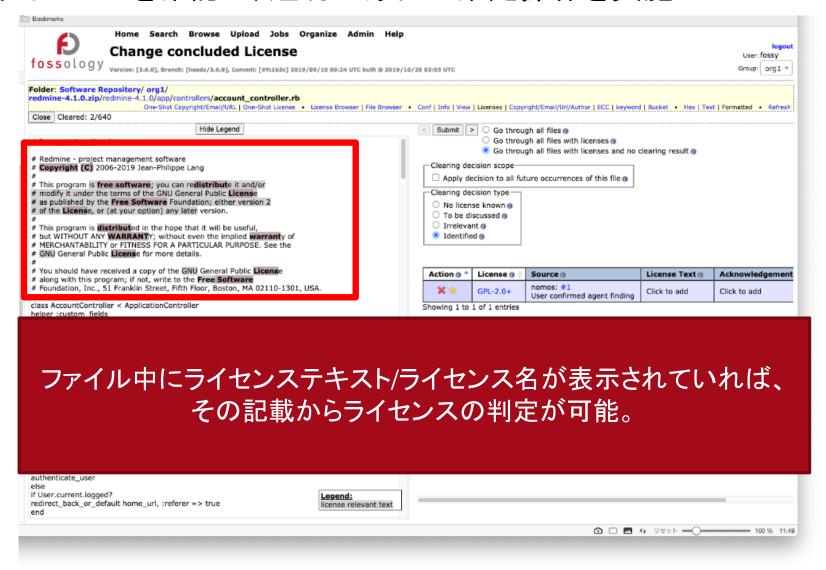
FOSSologyなどの情報を元に 利用者が精査する必要有

以下の様なケースでは比較的容易に精査は可能

- ・ライセンススキャナの情報からライセンス名が判定できる場合
- •See-URLでソフトウェアページが発見された場合



■ライセンスを確認し、適切であれば確定操作を実施





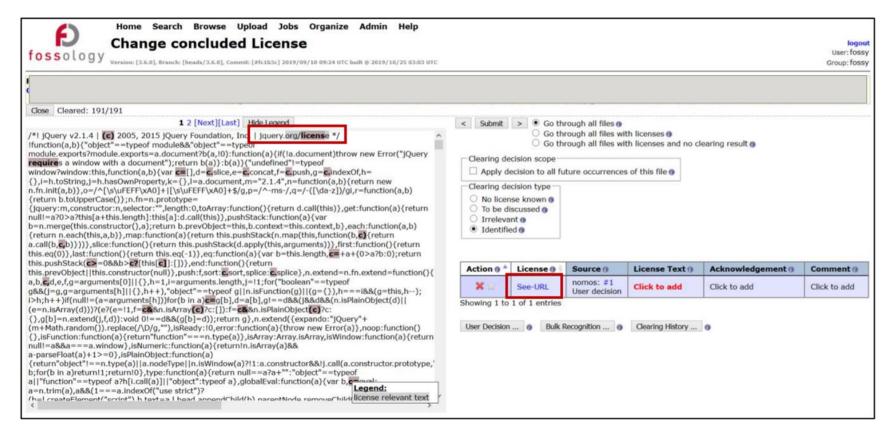
- 原則、文字列検索であり以下などのケースでは特に調査が必要
 - ソフトウェア名/バージョン情報はFOSSologyでは検出されない
 - バイナリファイルの場合
 - 一部、可読部分があれば検出対象となる可能性は有り
 - パッケージ管理ツール
 - ・設定ファイルからは、ライセンス文や 著作権情報に当たる記述が含まれないため検出できない。
 - ライセンスが不明/複数ライセンスが検出
 - ・不明の場合、UnclassFieldLicenseなどとして検出される

利用者が精査を行い、 ソフトウェア名/バージョン情報、ライセンス情報を特定する必要有

精査作業の例[ソフトウェアの特定]



- ソフトウェア名/バージョン情報は検出されない
 - ■「See-URL」「See-file」「See-doc.OTHER」などで検出された箇所にアクセス



- 著作権者情報をインターネット検索
 - ヒットしたGitHubページや開発者個人ページから特定できる可能性あり。

精査作業の例[ソフトウェアの特定]



- ソフトウェア名/バージョン情報は検出されない
 - 特徴的なコメント行をインターネット検索
 - GitHubなどソースコード公開ページに行き着く可能性有



精査作業の例[ソフトウェアの特定]



- ソフトウェア名/バージョン情報は検出されない
 - フォルダ名/ファイル名をキーワードに検索



精査作業の例[バイナリファイル]



- ■可読部分の確認
 - Stringsコマンドで確認

strings opencv_ffmpeg.dll | grep Copyright Copyright (c) 1992-2004 by P.J. Plauger, licensed by Dinkumware, Ltd. ALL RIGHTS RESERVED

- 著作権者や会社名などが確認できる場合がある
- •この情報をもとに、調査を進めることが可能。
- ■ファイル名やフォルダ名も調査のキーワードとなる

精査作業の例[パッケージ管理ツール]



- パッケージ配布ページなどヘアクセスすることで特定
 - Nuget(packages.config)の場合

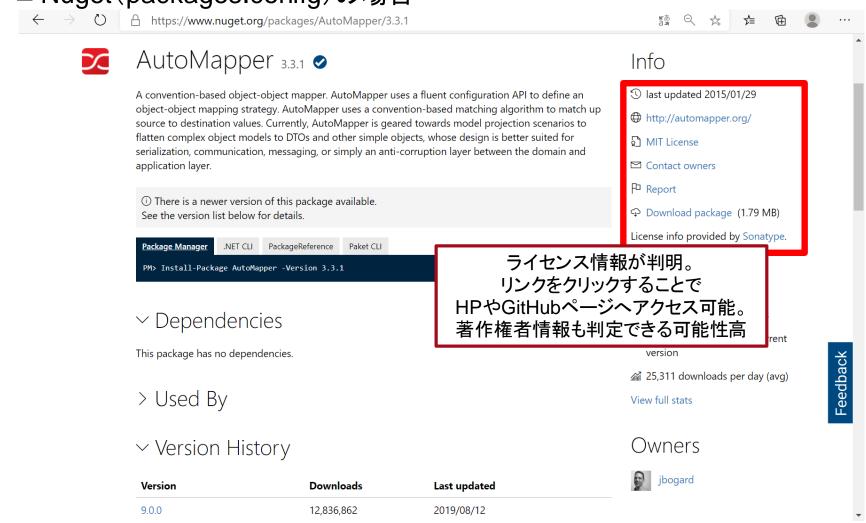
```
<?xml version="1.0" encoding="utf-8"?>
<packages>
<package id="AutoMapper" version="3.3.1" targetFramework="net45"/>
<package id="ClosedXML" version="0.76.0" targetFramework="net45"/>
<package id="Dapper" version="1.50.2" targetFramework="net45"/>
<package id="DocumentFormat.OpenXml" version="2.5" targetFramework="net45"/>
.
.
.</packages></packages>
```

- パッケージ名:バージョンが記述されているケースがほとんど。
- ■「AutoMapper: 3.3.1」をNugetサイトで検索
 - https://www.nuget.org/

精査作業の例[パッケージ管理ツール]



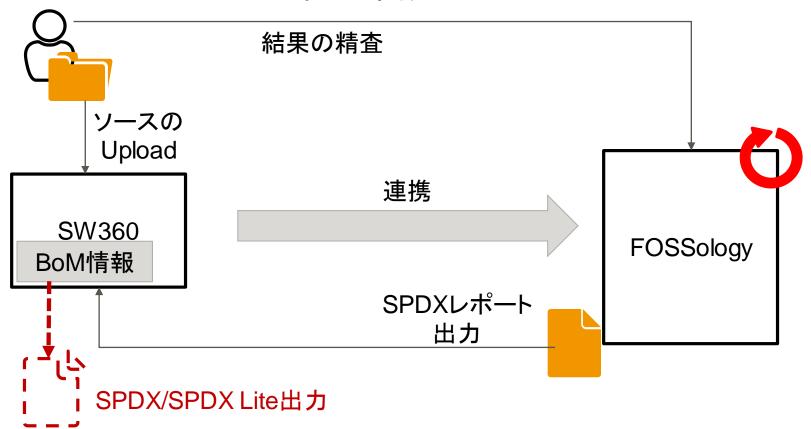
- パッケージ配布ページなどヘアクセスすることで特定
 - Nuget(packages.config)の場合



課題2



■ SW360でのSPDXレポート出力

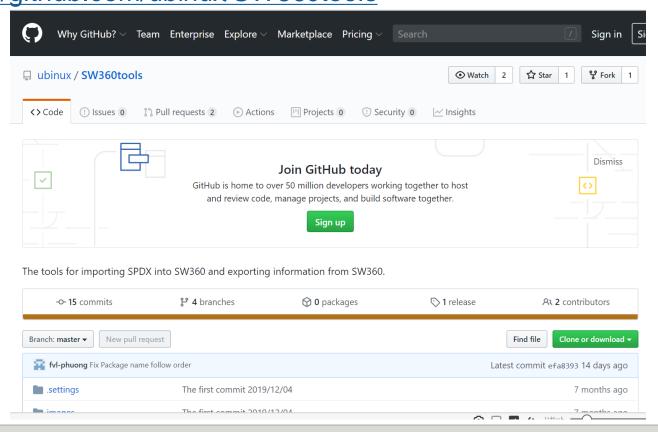


- SW360で管理するBOM情報のSPDX出力を行い、管理したい。
 - エビデンスとしての確保、関連部門との共有など

課題2



- SW360でのレポート出力
 - SW360toolsにて実現できそう(未検証) https://github.com/ubinux/SW360tools



SW360の利用感など共有いただければ幸いです。

最後に



■ 今後も継続してFOSSologyとSW360の検証を実施

■ 現在の検証バージョンは一年ほど前のものであり、 アップデートを予定しています。

■ FOSSology : 3.6.0(2019/9/10リリース)

■ SW360 :5.1.0(2019/10/5 リリース)

■このバージョンを利用している、比較的安定しているバージョンなど 情報があれば共有いただけると幸いです。

気になるアップデート内容



FOSSology

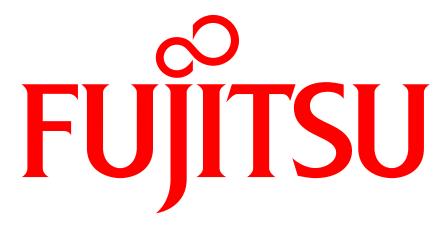
- v3.7.0-RC1
 - SPDXレポートに利用者が発見した著作権を追加
 - OJO(3.6.0から追加されたライセンス検出手法)の改善
 - REST API経由での操作、自動結論 など、14件の新機能と18件のバグフィックス
- v3.7.0
 - 7件の新機能と5件のバグフィックス
- v3.8.0-RC1
 - 新しいダッシュボード(サブメニューの追加)
 - 分析対象にSoftware Heritage (仏、ユネスコが企画したソフトウェアアーカイブ)追加
 - 関連性のない著作権の除外
 - ライセンス名の上限解除 など、27件の新機能と29件のバグフィックス
- v3.8.0
 - 5件の新機能と8件のバグフィックス
- v3.8.1
 - 1件のバグフィックスのみ

気になるアップデート内容



SW360

- v6.0.0
 - FOSSologyとの連携機能改善(SSHからREST APIへの変更)
 - データ構造の見直し(将来的な他ツール連携を見据えてより依存性の低い構造に変更)
 - プロジェクトに対するローカルカテゴリフィールドの追加
 - リリースやベンダーをマージする機能の追加 など、14件の新機能と18件のバグフィックス
- v7.0.0
 - ライセンスの変更(EPL-1.0 → EPL-2.0)
 - コンポーネントやリリースからベンダーを削除する機能 など8件の機能と4件のバグフィックス
- v7.0.1
 - 2件のバグフィックス
- v8.0.0
 - SPDXファイルからプロジェクトやリリースをインポートする機能
 - ソースコードスニペットの概念を追加 など、4件の新機能と7件のバグフィックス
- v8.0.1
 - 1件のバグフィックスのみ



shaping tomorrow with you